

2020. 11. 26 <計3枚>

京都大学記者クラブ加盟社 各位

立命館大学広報課

文化遺産や歴史都市の防災について考える
「第14回 歴史都市防災シンポジウム」をオンライン（Zoom）で開催
2020年12月5日（土）10:30～17:40

立命館大学歴史都市防災研究所（京都市北区・衣笠キャンパス、所長：大窪健之）は、文化遺産や歴史都市の防災をテーマとした「第14回歴史都市防災シンポジウム」を、12月5日（土）に開催します。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、オンラインでの開催となります。

文化遺産や歴史都市を自然災害や人災等から守ることについては、早急に解決すべき課題が多いのが現状です。歴史都市防災研究所は、文化遺産の宝庫とも言うべき京都・滋賀を拠点に、芸術と文化の保全と、それを支える環境とコミュニティを含む災害対策を一体として捉える「文化遺産防災学」の教育・研究を、文理の垣根を越えて行っています。

「歴史都市防災シンポジウム」は、同研究所の研究成果の発信と研究交流の場として、2007年以来、毎年開催しています。第14回となる今回は、益田兼房研究員による特別講演「文化遺産の防災：被災修復と価値」に続き、3つの会場に分かれて討議を行います。このテーマに関心をお持ちの方は、どなたでも参加できます。詳細は別紙をご参照ください。

記

日 時：2020年12月5日（土） 10:30～17:40（予定）

会 場：オンライン（Zoom）

内 容：特別講演、学術論文発表など

参加費：無料

※12月4日（金）正午までに、事前登録が必要です。

事前登録（日） <https://forms.gle/R8gBoWDanzJcNcVk8>事前登録（英） <https://forms.gle/7szw8spWFRLg4cwE7>

※詳細は、研究所HPをご覧ください。

<http://www.r-dmuch.jp/jp/project/symposium/program.html>

使用言語：日本語（一部、英語での発表、討議あり）

主 催：立命館大学 歴史都市防災研究所

以上

●内容についてのお問い合わせ

立命館大学歴史都市防災研究所 TEL:075-467-8801 担当:秋好

●ご取材についてのお問い合わせ

立命館大学広報課 TEL:075-813-8300 担当:桜井

第 14 回歴史都市防災シンポジウム : 2020 年 12 月 5 日(土)

プログラム

時間	特別講演 (Webinar)		
10:30~12:00	「文化遺産の防災：被災修復と価値」 益田 兼房 氏 (立命館大学衣笠総合研究機構歴史都市防災研究所客員研究員)		
時間	Zoom A 会場 (Room1)	Zoom B 会場 (Room2)	Zoom C 会場 (Room3)
13:00~14:20	A1. 防災技術 (1)	B1. 歴史災害	C1. 防災計画 (3)
14:40~16:00	A2. 防災技術 (2)	B2. 防災計画 (1)	C2. 防災計画 (4)
16:20~17:40	A3. 防災技術 (3)	B3. 防災計画 (2)	C3. 防災計画 (5)

【A 会場】

A1. 防災技術(1) 13:00~14:20

座長：吉富 信太

1. 通し柱を考慮した限界耐力計算について
2. 柱の傾斜復元力特性を含む礎石建ち板壁構面の繰り返し載荷実験
3. 木材の部分横圧縮のひずみ硬化のメカニズムとシミュレーション
4. 柱脚浮き上がりを許容した壁を含む架構の水平耐力の実験的検証

A2. 防災技術(2) 14:40~16:00

座長：伊津野 和行

5. 木造建築物の振動計測と立体解析モデルを用いた連結制震による応答低減効果の検討
6. 法隆寺東院鐘楼の縮小模型の加振実験
7. 多点同時振動計測に基づく柔床立体建物の部位別剛性・減衰・質量推定法
8. 壁長と壁倍率から評価した伝統的木造家屋の耐震性 —被害を受けた熊本県益城町の伝統的木造家屋の熊本地震強震動に対する地震応答性状—

A3. 防災技術(3) 16:20~17:40

座長：藤本 将光

9. 倉吉市旧明倫小学校円形校舎の構造特性に関する研究 —第 1 次診断と微動観測について—
10. 断面修復コンクリートの修復界面の形態と熱的挙動の関係
11. 當麻寺東塔の明治修理における三層屋根の重量の変化について
12. 城郭天守台石垣の鉛直荷重時安定性について

【B 会場】

B1. 歴史災害 13:00~14:20

座長：河角 直美

13. 江戸・東京の土蔵の変遷に関する研究
14. 「災害碑」という概念と分類方法の検討
15. 地域課題に直面する奥尻島青苗言代主神社例祭とその対応

B2. 防災計画(1) 14:40~16:00

座長：金 度源

16. インドネシア・スンバ島における民家の現状と住人の防火意識
17. 歴史的街区に備わる減災手法の防火性能評価 ～伝統的緑地による延焼抑止効果に着目して～
18. 重要文化財後背斜面での現地計測結果に基づく降雨量と斜面の変位量との関係
19. Research on the Disasters Monitoring and Early Warning in Tibetan Villages of the World Heritage Site Jiuzhaigou (報告)

B3. 防災計画(2) 16:20~17:40

座長：大窪 健之

20. Risk Assessment and Disaster Preparedness of Museums in Ombilin Coal Mining Heritage of Sawahlunto, Indonesia
21. Ambulance for Monuments -Urgent Intervention on Heritage (報告)
22. Assessing Awareness, Perception, and Usage Intention of a Disaster Information System: A Case of SIKK Magelang
23. 災害記憶継承に向けた出版活動 -2015 年ネパール地震を事例として- (報告)

【C 会場】

C1. 防災計画(3) 13:00~14:20

座長：小川 圭一

24. 災害情報を即時共有する地域防災情報ネットワークシステムの導入効果に関する検証 ～京都市先斗町での避難シミュレーションを通して～
25. 重要伝統的建造物群保存地区における公有建物と私有敷地の防災拠点化に関する調査研究 -地域防災資源のデータベース構築と事例調査を通して-
26. 非医療従事者の一次救命の不確実性をふまえた AED・サインの適正配置 -伏見稲 荷大社を対象としたマルチエージェントシミュレーション-
27. 観光客等の緊急避難場所としての社寺の能力評価に関する研究 ～京都市清水・祇園地域を対象として～ (報告)

C2. 防災計画(4) 14:40~16:00

座長：青柳 憲昌

28. 京都市嵐山地区の事前復興計画に向けた建築物の類型化及び印象評価に基づく浸水被害を想定した復興モデルの提案
29. 防災街区整備事業を活用した密集市街地整備に関する研究
30. 京都市下京雅学区の事前復興計画に向けた建築物の類型化及びその評価に基づく復興モデルの提案と延焼危険性の分析
31. 保津川および沿岸地域における流域空間デザインの研究 (報告)

C3. 防災計画(5) 16:20~17:40

座長：武田 史朗

32. 大工仕事の力加減の可視化 -Human Computer Interaction 技術を用いた伝統技術の保存継承- (報告)
33. 石垣の見え方が丸亀城景観の印象評価に与える影響に関する研究
34. 文化遺産防災を対象とした CVM における「特定可能な犠牲者効果」に関する分析
35. 中央アジア・ザラフシャン川流域における土地利用変化と考古遺跡 -Landsat 衛星データを用いた分析から-